

『薬師寺』 『今宮恵比寿神社』

宇治支所 平松 正孝



奈良市内に親戚があったことで、子供の頃より奈良の風景に親しんでおりました。また、39歳の時に薬師寺の末寺に我が家の墓地が建立されたことで、薬師寺とは深い縁ができました。とある日、写真家入江泰吉の作品で、薬師寺近隣の大池より薬師寺を臨み、背景に



三笠山を写した写真に出会いました。一度私も挑戦と思い、同じ場所に立ち何度も試みましたが、残念ながらこの写真となりました。しかしながら、朝早く自然に接し、風景を写しに行くことに人生の幸せを感じます。写真が趣味で良かったと思います。

もう1枚は、結婚してから毎年の様に参っている今宮恵比寿神社の出店の写真です。吉兆売りのお店の賑々しさとは裏腹に全体的に活気がなく寂しい気がします。昔は人々の表情や周りの雰囲気魅了されたのですが…。子供たちには、素晴らしい自然と人々の明るく幸せに暮らせる社会を残したいと願っています。



私の残したい風景

『一口 (いもあらい) 付近の水郷風景』

宇治支所 土屋 信雄



『釣りはフナに始まりフナに終わる』と云われるように、私が釣りを始めたのもやはりフナ釣りでした。



私の育ったのは東西両本願寺の狭間にある地域です。

町の子の悲しさで、巡回監視員の目を盗んで、悪童連と禁じられている東本願寺のお堀での釣りを試みたこともありました。魚をかけたときのピクピクする手ごたえが忘れられず、中学生になると早速友だちと電車で淀まで遠征し、巨椋池干拓地跡の水域である一口付近で思う存分フナ釣りを楽しみました。うららかな



春の日、水辺には葦が繁り、ヨシキリやひばりの声が盛んに聞こえています。あたりは一面の菜の花畑で、広いクリークをときおり農作業に向かうサッパ舟が音もなく過



ぎて行くのどかな風景がありました。魚はうどん粉にさなぎ粉を練り込んだだけの素朴な餌で、意外なほど簡単に釣れ、置竿をしたまま目を離し

ていると浮木は活発に運動会を繰り広げていました。

現在、私はこの地域から車で15分程の処に生活していますが、往時と比べあたりの様子は一変してしまいました。水辺はコンクリートの護岸が多くなり、葦原も随分少なくなったように思います。付近を高速道路網が走り、野鳥の声を聞くことは出来ません。それでも休日にはチラホラ釣り人の姿を見かけますが、何故か私は竿を出す気になれません。フナは環境適応力に優れた魚で、水の汚れてしまった今でもしぶとく生息しています。でも釣れた魚を玉網で掬うと玉網にべっとりヘドロ状のゴミが付着して、そのゴミを洗い流すすべもない有様です。便利さや経済成長と引き換えに失ったものの大きさを思わずにはいられません。せめて護岸を自然な姿に戻し、葦原を復活させることで水質浄化に努めてもらいたいと願う次第です。





「そろそろ次あたりどう？」と編集委員長から優しいお声がかかったのは、前回の編集委員会直後でした。「候補地としては朽木なんかどうかな。おいしい鯖寿司もあるよ」。最後の一言で私の心は決まりました。「朽木、行ってきま～す！」

とは言ったものの、どのバスに乗ればいいのかさっぱりわかりません。調べてみると、朽木まで行くのは出町柳駅発の京都バスで、朝7時45分と午後2時55分の1日たった2本とわかりました。所要時間は約1時間30分。京都バスの最長距離路線で、京都バスでは唯一京都府を越えて滋賀県高島市朽木まで行きます。

私はてっきり朽木村かと思っていたのですが、2005年1月1日に朽木村、高島町、マキノ町、今津町、安曇川町、新旭町の5町1村が合併し高島市になったのだそうです。

明日行こうと決めた日の前日に天気予報を見ると、「明日は雨」の予報。そこで、朽木の夕景なんてちょっと絵になるかも…との期待を込め、急遽予定を変更してその日の午後の便で行くことにしました。

登山などのレジャー客が利用者の大半を占める路線だそうで、平日は乗降客が少ないため、マイクロバスで運行されています。私が乗った日も平日だったので、マイクロバスで出町柳駅を出発しました。

鯖街道(国道367号線)をひたすら北へ。三宅八幡を過ぎたあたりから少しずつ寒さが増し、花折峠から平に向かうトンネルを抜けると突然道の両脇に雪が姿を現します。さらに進むと「旨いっ！鯖寿司」、「評判の鯖寿司」などという看板があちこちに見えだしましたが、1日2本しかないバスなので途中で降りるわけにはいきません。看板を横目にバスに揺られていると少しずつ雪が減り、ほとんどなくなった頃に終点「朽木(朽木学校前)」に着きました。出発した時ほぼ満席だったバスも、終点では私ひとりになっていました。

さぁ着いた、と勇んでバスを降りた私の目に飛び込んできたものは、大きなコンビニ、国道をビュンビュン行き交う



車、そしてファミリーレストランの「食べ放題1000円バイキング」の看板。「えっ！えっ！何これ～」。朽木という名前の響きから、勝手に雪に埋もれた鄙びた田舎を想像していた私のイメージはガラガラと音をたてて崩れていきました(なんせ村だと思っていたくらいですから)。

けれどここでメゲているわけにはいきません。今乗ってきたバスの運転手さんに「朽木らしいところってありますか？」と尋ねると、「くつき温泉かなあ。そこにくつき温泉行きのシャトルバスが止まっているから聞いてみたら」とのこと。そこでシャトルバスに行き、運転手さんに「くつき温泉って今から行っても楽しめますか？」と聞くと、あっさり一言「無理。第一これが最終のバスだよ」とのお答え。午後の便で来たのは失敗だったかと思っても後の祭りです。

行くあてもなくしばらくバスターミナル付近をぐるぐる廻ってから、ようやく道の駅に気づきました。慌てて飛び込んでレジのお兄さんに「朽木らしいところって…」と聞いてみると、ガイドマップを出してきて「日曜はここで“新本陣日曜朝市”っていうのがあって結構賑わうんですよ。京阪神からもたくさん人が来られます。あと近くでは足利庭園かな」「え？そこって、ここからどれくらいで行けます？」「歩いて10分位ですね」。



時すでに遅し！帰りのバスが出るまであと10分しかありません。実は朽木からはJR安曇川駅と堅田駅に行く江若バスがあるという情報があったので、午後の便で行ってもそちら経由で帰れば時間は調整出来るだろうと思っていたのですが、この江若バスが、夕方は特に本数が少なく、乗ってきたバスで帰らなければ何時に帰れるかわからないという状況だったのです。

という訳で、結局私はどこにも行けないまま泣く泣く帰路につきました。もちろんその手にはしっかり鯖寿司を握りしめて…。

ちなみに私は行きませんでした。くつき温泉で「くつき温泉てんくう」までは「朽木学校前」からシャトルバスで約10分。グリーンパーク「思い出の森」の中にあり、露天風呂や温水プールもあるそうです。バーベキューなども楽しめ、宿泊施設もあるとのことなので、あらためてゆっくり行ってみたい所です。

また足利庭園は、足利義輝が都を追われ朽木に逃れてきた際に、近江の諸大名が將軍を慰めるために造った庭園で、現在は国の名勝に指定されているそうです。いずれもご興味のある方は是非お出かけ下さい。

Kitchen 1484(イシバシ)

右京支所
國場 淳



「え〜、ここがお店？」初めて来店する人は一様に驚きの声をあげる。阪急桂駅西口前の碁盤の目に区画された閑静な住宅街の、ごく普通のこじんまりとした家で、看板も掲げていないからである。これぞ隠れ家と呼ぶのにふさわしいたたずまいである。宣伝もしない、口コミだけで来ていただくことを店のコンセプトにしている。(今回は、私の依頼ということに特別に)

店内は、北山杉をメインの柱に使い、真っ白な西洋漆喰壁と和の土壁を組み合わせた造りに、光と影を随所に配した照明と合わせて、落ち着いた雰囲気を醸し出している。



掘りごたつ式の6人掛けのテーブルが3つ、その奥に厨房を囲んでのカウンター席がある。テーブルは移動して繋げるので、最大20名の団体が利用できるようになっている。

元小学校長だったオーナーが、息子のシェフが作る料理を運び、オーナーの奥さんが皿洗いをするという家内制料理店という趣である。



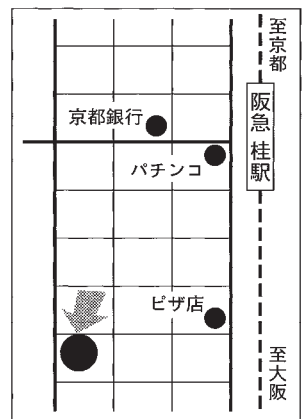
料理は、シェフが独学、独自の感性で創り上げた和・洋を取り混ぜたオリジナルおまかせ料理をコース形式で出される。前菜からデザートまで全9品。料理の中身はその日によって異なるが、出される一品一品に素材を生かした工夫がなされており、次は何が出てくるのだろうか、どんな味が楽しめるのだろうか、と期待感を持たせてくれる。

味で満足、量で満足、そして、税込み3,800円のコース料金で満足。3拍子そろった店といえる。

営業時間は午後5時から10時。定休日はなく、不定休。前日までの完全予約制となっている。

『Kitchen 1484 (イシバシ)』

京都市西京区川島有栖川町123-2
TEL 075-392-0287
営業時間 17:00~20:00 不定休
(完全予約制)



シリーズ にとっておきのお店

ここでは組合員先生方にお薦めのお店をご紹介します。

旬香 ブランシュ

右京支所 谷 明憲

京都西山大原野の山奥、これ以上行くと、どこへ行くのかな、と思うころ。今回、紹介させていただく「旬香ブランシュ」があります。

道路から、急な坂をのぼった上に、別荘のような和風の建物があり、お店となっています。山の中腹にあるので見晴らしは大変よく、京都の南部が見渡せます。

「京都西山大原野、癒しの時間と空間を。」



ふるさと気分でスローライフ。シェフの料理と囲炉裏焼きで、おもてなし」をモットーに、昼夜一組の完全予約制となっています。

行き方は、車でも行けるのですが、道も狭いことなので、JR-向日町・長岡京、阪急-東向日・洛西口・長岡天神からタクシーで行くのがいいと思います。

『旬香ブランシュ』

京都市西京区大原野石作町460-2
TEL 075-333-6139
営業時間 11:00~15:30
17:00~22:00
(完全予約制)



昼は11時~4時、夜は5時~9時と、本当にゆっくりと、長時間楽しめる

お店です。シェフは、「皆さん長時間お店にいらっしゃいますよ」と、笑顔で話されています。

コースは、おまかせのコース、近江牛のコース、海老のコースとなっており、前菜・スープ・揚げ物等、品数も多く、お腹いっぱいになって帰れることは間違いありません。



『賀茂川』

上京支所 鹿野 幸裕

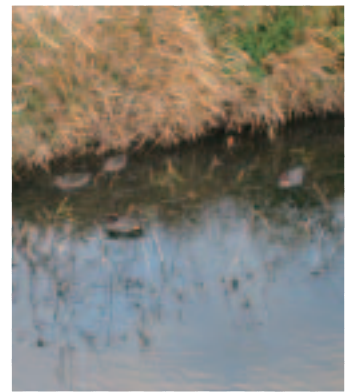
北区には京都を代表する川である鴨川の源流があります。私は生まれてからずっと北区に住んでおりまして、30年以上この鴨川の流れを見ながら過ごしてきました。鴨川といえば三条大橋または出町柳周辺の風景を思い浮かべられる方が多いでしょうか。北区を流れる鴨川の風景は少し違います。私の住むあたりの鴨川は高野川と合流する前の「賀茂川」と表記される流域になり、まだまだ自然が多く残っております。犬の散歩で鴨川の河川敷をよく歩くのですが、カ

モの親子の水遊びやカワセミが小魚を狙う様子、さらに水の中をよく見



てみますと大きなコイがゆっくりと泳ぐ姿が観察できます。こんな風景に出会いますと思わず足を止めてしまいます。

忙しい確定申告期を終え、春になりましたら「賀茂川」へ足を運んでみてください。桜並木を背景に美しい自然がご覧になれます。なお、冬の時期につきまして、京都市中心部では雪がちらつく程度でありましても、こちらでは積雪5cmなんていうことがありますのでご注意を。



『京都市左京区岩倉』

左京支所 二股 茂

手もとに「洛北 岩倉誌」という郷土誌があります。この本は1995年に岩倉北小学校創立20周年記念事業の一環として、地元旧家出身の当時大阪府立大学総合科学部助教の中村治氏が中心となってまとめあげたA4版460頁の大作で、岩倉の石器時代から現代までの歴史、風俗、暮らし、挿話、ことば、唄、文化財、自然等が明治時代以降の137枚の貴重な写真とともに綴られています。その本によると、1889年(明治22)に近隣の6ヶ村が合併して京都府愛宕(おたぎ)郡岩倉村という行政単位の『岩倉』が誕生し、1881年(明治14)の「京都府地誌」に載るその合計人口は1,946人393戸、馬76頭、牛3頭、中小車(?)33であった、とあります。2005年(平成17)国勢調査のその人口は25,478人

ています。ちなみに府下宮津市のそれは21,511人、東山区は全区で42,462人なので、その比較からこの街の大きさがわかるかと思えます。

平成9年に地下鉄が、地域念願の国際会館駅まで延長されて京都駅からとても近くなりました。わずか20分で、山懐に囲まれた緑あふれるこの岩倉に到着。京都駅では晴れていたのに地上に出ると、いきなり雪国に来てしまったと驚く日も年に幾度もあります。岩倉は大きく岩倉北、明德、岩倉南と3学区に別れていて、



宝ヶ池通より比叡を望む

この3学区の中に大学1(精華)高校2(北稜・同志社)中学1(洛北)小学校4(北・明德・南・同志社)と学校がひしめく文教地域でもあります。



9,869世帯、馬(京都宝ヶ池乗馬クラブに)数頭、牛0頭ですから120年余で約13倍にもなっ

ています。名所旧跡では、最近「床もみじ」「床緑」としてマスコミがよく案内するようになった門跡寺院の実相院や枯山水庭園が見事な円通寺、安珍清姫伝説の鐘がある妙満寺のほか、宝ヶ池畔に建つ国際会議場や京都宝ヶ池プリンスホテルなどが点在しますが、これら全ては東に堂々たる偉容を誇る比叡山や北と西の周囲の山々からもたらされる自然の迫る、山紫水明の地であるからこそのものなのでしょう。この自然との共生を永遠に願いたいものです。

組合の動き

- 11・20 学院・短期講座開講「財務アドバイザーのための金融講座」
講師 大垣尚司先生
参加 40名
- 11・21 学院・民法勉強会開講・全10回（8回目）
講師 三木義一先生・山田 希先生・本山 敦先生
参加 47名
- 11・22 学院・短期講座開講「医療法人制度改革後の設立・運営・税務のポイント」
講師 花山和士先生
参加 136名
- 11・24 学院・短期講座開講「年末調整の仕方について」
講師 岩崎紀子先生
参加 148名
- 11・24 支部役員との懇談会開催（中京・下京）
参加 32名
- 11・27 支部役員との懇談会開催（上京・東山・伏見）
参加 38名
- 11・28 学院・民法勉強会開講・全10回（9回目）
講師 三木義一先生・山田 希先生・本山 敦先生
参加 47名
- 11・29 京都税理士協同組合厚生会役員会開催（「京都税理士協同組合厚生会会則」一部改正について）【書面審議】
- 12・1 京都新聞社会福祉事業団にゴルフコンペ等のチャリティーを寄託
- 12・3～4 一泊旅行下見実施
- 12・5 学院・民法勉強会開講・全10回（10回目）
講師 三木義一先生・山田 希先生・本山 敦先生
参加 47名
- 12・5 学院・短期講座開講「年末調整の仕方について」
講師 岩崎紀子先生
参加 47名
- 12・6 学院・短期講座開講「実務家が知っておきたいLLPとLLCのポイント講座」
講師 北條達人先生
参加 52名
- 12・7 学院・実務講座開講「所得税の基礎知識と計算の実務」
講師 三宅 司先生
参加 65名
- 12・9 創立35周年記念事業実行委員会準備会（創立35周年記念事業実行委員会構成員の選出等）
- 12・11 情報化推進に関する打合せ開催（各種団体の行事予定表（ホームページ）について）
- 12・11 大同生命「生命保険リスクマネジメントセミナー」出席
於 京都センチュリーホテル
- 12・13 学院・短期講座開講「一実例で見る一不動産鑑定評価について」
講師 佐藤克美先生
参加 40名
- 12・14 正副理事長会・常務理事会・理事会開催
- 12・14 役員・委員合同忘年会開催
於 京都ホテルオークラ
- 12・18 税務便覧制作委員会開催（平成18年分税務便覧の販売状況について）
- 12・21 保険小委員会（全税共）開催（第21回全税共表彰式・祝賀パーティー事前打合せ）
- 12・28 仕事納め
- 平成19年
- 1・4 仕事始め
- 1・9 市内7税務署への新年挨拶
- 1・9 正副理事長会開催
- 1・10 学院・短期講座開講「最近の土地評価に関する諸問題」
場所 京都商工会議所
講師 笹岡宏保先生
参加 170名
- 1・10 編集委員会開催（第116号の編集割付）
- 1・10 近畿税理士会賀詞交歓会出席
於 帝国ホテル大阪
- 1・12 近畿税理士会京都府支部連合会新春講演会・新年賀詞交歓会出席
於 京都ホテルオークラ
- 1・16 学院・短期講座開講「税理士業務のための文章講座へのお誘い」
講師 伊藤俊春先生
参加 26名
- 1・17 編集委員会開催（第116号のゲラ校正）
- 1・18 編集委員会開催（第116号のゲラ再校正）
- 1・18 創立35周年記念事業実行委員会
総務・会計・広報合同委員会開催
- 1・18 第21回全税共全国統一キャンペーン優績営業職員表彰式・祝賀パーティー開催
於 ウェスティン都ホテル京都
- 1・19 創立35周年記念事業実行委員会イベント委員会開催
- 1・19 創立35周年記念事業実行委員会表彰委員会開催

理事会報告

◆第4回理事会

平成18年度第4回理事会を12月14日午後3時20分より開催致しました。

当日の出席状況は次のとおりでした。

理事47名 監事5名 相談役3名

【決議事項】

第1号議案 組合加入並びに賛助会員加入承認の件

次の個人加入17名・法人加入2社、賛助会員として組合員から移行の先生5名・新規入会1名が組合加入並びに賛助会員加入を承認されました。なお、組合員数は個人組合員1,285名、その出資金額12,557万円、法人組合員34社、出資金額340万円となりました。また、賛助会員は111名になりました。

（申込順・敬称略）